

## GAP 認証取得経営体における GAP の実行プロセス

利用対象：普及指導員、行政担当者、GAP に取り組む農業経営者等

- ◎ GAP 認証を取得した農業経営体は、どのように GAP を実施し、継続させ、新たな改善に取り組んでいるのか？ 認証取得した農業経営者等へ詳細なインタビューを行い、農業経営者等の行動と GAP の実行プロセスを構造的に分析しました（図1）。
- ◎ 農業経営者等はまず【管理基盤の構築】を行い、新たに発生した業務を【定型作業の習慣化】をし従来業務に取り込みます。習慣化によって蓄積された作業記録等から〈課題の発見〉がされるため、〈対処行動〉〈感度の高まり〉が起き、主体的に改善策を導き出し実行する状態に至ります（【課題改善機能の自走】）。組織の構成員へは GAP との〈接点を作る〉、知識や営農データといった〈判断材料を渡す〉、それらを土台に〈現場対応力を伸ばす〉取組を通じて【管理機能の組織内展開】を図ります。このとき農業経営者等は経営の方向性や自身の価値観、構成員への待遇について【姿勢を見せ】、各構成員に取組動機の内在化を促しています。
- ◎ 農業経営者等はこれら一連の動きと同時に【認証制度の価値探索】を行っており、認証制度は GAP の実行プロセスに影響を与えています。行政及び支援者は認証制度が及ぼす影響を考慮して政策立案及び推進活動を行う必要があります。

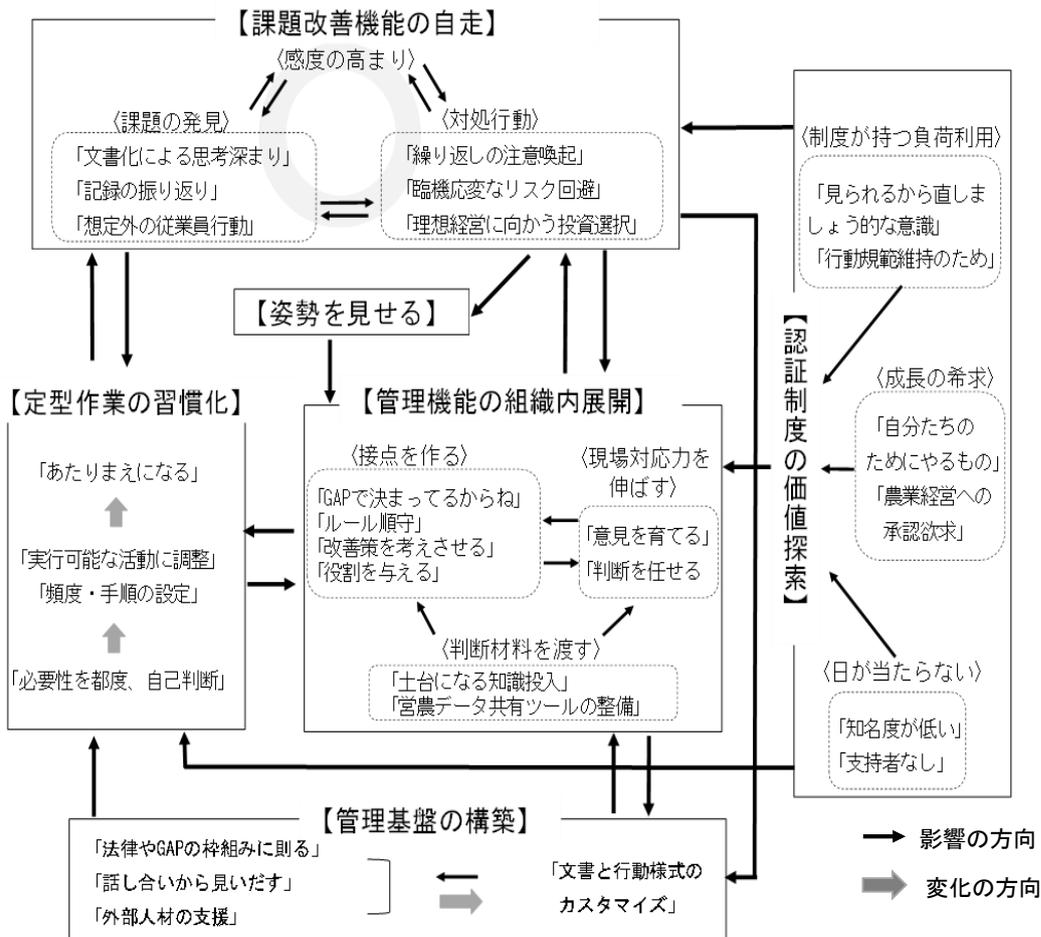


図1 農業経営者等が GAP を実行するプロセス

お問い合わせ先	生産技術研究室 地域連携研究課 飯場聡子 電話 0598-42-6356
参考になる資料	<a href="https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a> (三重農研HP)